

8月の県内景況は、全ての項目別DI値が前月と比較し好転するものの、依然として低い数値にある。

情報連絡員による平成28年8月の県内中小企業の景況は、業界全体として「好況」は11.9%（前月比+1.6）となっており、「横這い」は28.4%（同-7.8）、「低調」とするところが59.7%（同+6.3）、業界全体の「景況感DI」は-47.8%（同-4.7）となっています。

1. 全産業の項目別前年同月比DI値の動き

◇「売上高」「在庫数量」「販売価格」等、全ての項目が前月と比較して好転しています。

2. 業種別の「業界の景況」

◇前年同月と比較して、繊維製品製造は「快晴」、卸売業、小売業、サービス業、建設業は「曇り」または「薄曇」、その他の業種は「大雨」または「雨」となっています。

◇来月の見通しは、好転、やや好転の見込みとの回答が、10.5%（前月比-6.7）と減少しております（やや好転の回答6件）（製造業4、非製造業2）。また、変わらないが、63.2%（前月比+14.9）と増加しております。やや悪化、悪化の見込みは、26.3%（前月比-8.2）と減少しております。

平成28年7月の景況について、情報連絡員からの報告は以下のとおりです。（回収率98.3%）

項目別DI 業種区分	売上高		販売価格		収益状況		資金繰り		雇用人員		業界の景況	
	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
食品製造	-71.43	-57.14	0.00	0.00	-57.14	-14.29	-28.57	-14.29	0.00	-14.29	-42.86	-71.43
繊維製品製造	66.67	33.33	0.00	33.33	33.33	33.33	33.33	33.33	0.00	-33.33	33.33	33.33
木材製品製造	0.00	-50.00	0.00	-25.00	0.00	-50.00	25.00	-25.00	0.00	0.00	0.00	-50.00
鉄工機械製造	-60.00	-60.00	0.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	0.00	-40.00	-20.00	-40.00
その他の製造	-66.67	-71.43	0.00	28.57	-16.67	-42.86	-16.67	-14.29	-16.67	14.29	-33.33	-42.86
卸売業	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	-50.00	-25.00	-25.00	0.00	0.00	-25.00	0.00
小売業	22.22	-33.33	0.00	11.11	-22.22	-33.33	-22.22	-33.33	-22.22	-55.56	-22.22	-22.22
商店街	16.67	-16.67	-33.33	0.00	0.00	-50.00	0.00	-33.33	0.00	-16.67	-16.67	-33.33
サービス業	33.33	-33.33	16.67	16.67	33.33	-16.67	0.00	0.00	0.00	0.00	16.67	0.00
建設業	0.00	-20.00	0.00	0.00	0.00	-20.00	0.00	-20.00	25.00	0.00	0.00	-20.00
運輸業	-100.00	-66.67	0.00	0.00	-66.67	-33.33	-33.33	-33.33	-33.33	-66.67	-66.67	-33.33

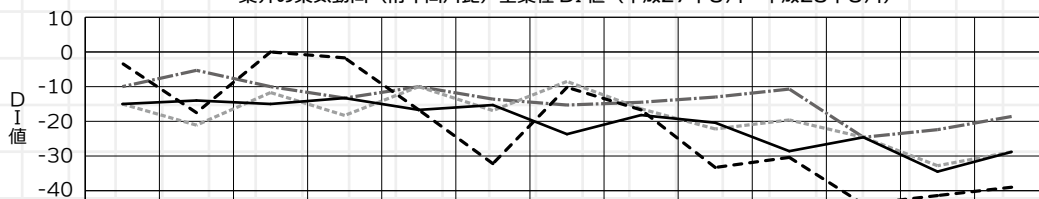
天気図の見方

各景況項目について「増加」（または「好転」）業種割合から「減少」（または「悪化」）業種割合を差し引いた値(D・I値)をもとに作成。その基準は下表のとおりである。

D・I値基準値

- 快晴 30以上
- はれ 10~30未満
- うすぐもり -10~10未満
- くもり -30~-10未満
- 雨 -50~-30未満
- 大雨 -50未満

業界の景気動向（前年同月比）全業種DI値（平成27年8月～平成28年8月）



— 業界の景況
 - - - 売上高
 収益状況
 - · - 資金繰り

	平成27年8月	平成27年9月	平成27年10月	平成27年11月	平成27年12月	平成28年1月	平成28年2月	平成28年3月	平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月
業界の景況	-15.0	-14.0	-15.0	-13.3	-16.7	-15.3	-23.7	-18.2	-20.4	-28.6	-24.6	-34.5	-28.8
売上高	-3.3	-17.5	0.0	-1.7	-16.7	-32.2	-10.2	-16.7	-33.3	-30.4	-43.9	-41.4	-39.0
収益状況	-15.0	-21.1	-11.7	-18.3	-10.0	-16.9	-8.5	-16.4	-22.2	-19.6	-24.6	-32.8	-28.8
資金繰り	-10.0	-5.3	-10.0	-13.3	-10.0	-13.6	-15.3	-14.5	-13.0	-10.7	-24.6	-22.4	-18.6

食料品製造業

<漬物>

震災後、風評被害により漬物業界は大変厳しい状況に陥った。福島県産のお米が厳しいように、農産物加工食品である漬物業界も未だに風評被害で苦しんでいる状況。

<パン>

食の販売は暑さが大変影響する。

<味噌醤油>

醤油の主原料である小麦が値下がり傾向にあるにも拘わらず醤油の出荷が減少し続けている。売上減を経費等の節約で補っている現状にある。主原料・副材料等はやや値下がり傾向ではあるが、円安期の高値を推移している。

<菓子>

気温が高い日が続き、苦戦している。9月は十五夜、敬老の日、秋彼岸等が続き、繁忙期に入る。北海道の水害で小豆が高騰している状況のため対応を検討中である。

<乾麺>

輸入小麦の政府売渡価格が28年10月期において改正される。平均で7.9%の引き下げとなる。強力粉が6.5%、中薄力粉で10.4%になるが、小麦粉の値下げは1月ごろになるよう。

<酒造>

売上が落ちている。純米酒も前年割れで厳しい状況となっている。天候によるものなのか、景気が悪いのか、来月の状況を見てみたい。

<食品団地>

今月も原油価格が少しずつ上がり始めている。全体的には売上が伸びず、生産・在庫調整が続く難しい状況である。雇用においても改善が見られず、特に中途・パート採用は厳しい状況である。

縫製品・同製品製造業

<ニット>

気候変動が激しく、先が見えにくい状況が続いている。

木材・木製品製造業

<製材業>

原木(丸太)の出材は8月上旬には順調であったが、下旬に入ると大雨が続いた影響で出材が遅れ気味となった。しかしながら、価格を押し上げるには至らず、秋需に向けて品不足への懸念もある。一方、製材品の荷動きは大手の住宅会社やプレカット向けが中心で、地域の工務店からの引き合いは依然として少ない。

<外材輸入>

製材品の荷動きは前月に引き続き、停滞したままで推移している。為替が不安定な動きを示しており、市場は当用買いが続いている。

紙・紙加工品

<紙器・段ボール箱>

消費者の思考が多様化、専門化する昨今において、市場ニーズは変化している。小ロット多品種化、新製品開発や販促プロモーションの差別化等、市場ニーズの多層化が進んでいる状況にある。

印刷業

<印刷>

例年、8月は他の月に比べて稼働状況、売上とも低

調な月であるが、今年の夏の景況は特に厳しく感じられた。

窯業・土石製品製造業

<碎石>

(県北地区)

1. 当月売上数量	前月比	約14%減
2. "	昨年同月比	約20%減
3. 本年度売上数量	昨年対比	約23%減
4. 原因・現状		

- ・昨年は住宅除染工事等があり、出荷が安定していた。
- ・夏期休暇例年より多かった事も出荷減の一つだと思われる。

<生コン>

平成28年8月の組合員生コン出荷数量は、131,820m³と対前年同月比7.4%減。出荷数量の内訳は、民需が対前年同月比19.8%減、官公需が9.6%減であった。

○民需の動向

対前年同月比 19.8%減

対前年同月比増加地区

<相双地区> 17.9%増 民間企業単身寮、第一原発事務棟整備建設工事、原発保安対策工事等

<会津地区> 23.2%増 裏磐梯日帰り温泉施設、老人福祉施設建設工事等

対前年同月比減少地区

<県北地区> 15.8%減 市内総合病院移転新築工事、事務所、工場新築工事等

<県中地区> 47.6%減 新福島郵便処理施設、東邦銀行三春支店新築工事等

<白河地区> 8.3%減 工場新築、工場倉庫増築工事等

<いわき地区> 42.9%減 製紙工場、小名浜SS(セメント基地)建設工事等

○官公需の動向

対前年同月比 9.6%減

対前年同月比増加地区

<県北地区> 46.7%増 腰巡トンネル、県警本部庁舎建築工事、復興公営住宅工事等

<白河地区> 28.3%増 ひらた清風中校舎新築・屋内運動場、新白河小屋内運動場建設工事等

<いわき地区> 21.7%増 港湾災害復旧、国立いわき病院、市立磐城共立病院新築工事等

対前年同月比減少地区

<県中地区> 4.4%減 須賀川市新庁舎新築、開成山屋内水泳場新築工事等

<相双地区> 38.3%減 減容化施設、海岸復旧工事等

<会津地区> 4.2%減 道路橋梁改良工事、災害復旧工事等

鉄鋼・金属・一般機械製造業

<各種プラント機器>

プラント関連業界は、集中定修工事も終息し、扱い件数も月々に低下している。売上高では、前月比45%と大幅な減となり三ヶ月連続での減少となった。前年同月比においても31%と低調な取引となり、累計比でも前年比76%と大幅な落ち込みとなっている。

<精密機械>

上半期締月内での受注の増加がみられた。

卸売業

<卸売業>

(県中地区)

8月は休みが多く、全体的に売り上げは伸びていない。前年比においても同じくらい。医薬品卸については、高齢化社会の影響もあり、患者数が増加していることから、需要は伸びている。その一方で、国の財政が逼迫していることから医療費抑制の動きが進んでいて、売上の拡大があまり期待できない環境にある。ジェネリック薬品の普及拡大に向けた、最近の動きはその一環である。

(県北地区)

米穀の販売単価は昨年より上がっているが、取扱数量が減ったため売上高は増えない。

<再生資源>

古紙市場は、回収・消費ともに減少傾向である。国内向けは前年割れだが、輸出向けが好調で下支えしている。品目的には新聞用紙の低下が目立っている。鉄くず市場は、アジア向け輸出市況が堅調に推移し、強基調である。

小売業

<共同店舗>

(県中地区のOショッピングセンター)

ファンシー雑貨テナントの退店による客数減少、帰省客数も減少傾向にあり、売上、客数ともに低迷した。

(県中地区のNショッピングセンター)

人口の減少並びに売上の減少が問題となっている。

<石油>

8月は、元売仕切価格が上昇する中、小売価格の下落が続いた。特に3週目以降、仕切価格は大幅に値上げとなり、採算割れの価格が一部地域で散見される。

<青果>

前月からの状況は変わらず、単価の高騰は部分的にあるものの入荷数の減少で取扱の増加に繋がらなかった。桃の取扱も始まったが、昨年に比べ取扱は減少した。お盆の時期でもあったが取扱は伸びなかった。今後、台風の影響を受けた北海道産のジャガイモや玉葱、人参の高騰が予想され、取扱にも影響するもの考えられる。

<家電>

天候の不安定によりエアコンなど、夏物家電の売上げは昨年より悪化している。

商店街

<福島市>

夏祭りなどのイベントにおいては、例年通り盛況であるものの、その反動が平日に表れている。暑さ・台風の影響も大きかったように感じる。

<郡山市>

今月は、今までよりもやや盛り返した感じだった。市内百貨店で、加賀展、九州展、北海道展と8月にまたがったのが大きかったよう。改めて、催事による集客力の大きさを感じた。

<南相馬市>

イベント等もなく、商店街は閑散としている。

<会津若松市>

アーケードがなく日差しが強いので、気温が高い日中は人の動きが少なかった。夏セールはまずまずの動きで、祭礼、イベントでは例年並みの人出があった。

<いわき市>

台風の上陸など天候不順の影響が大いにあり、8月

は物販・サービス業には大打撃。前半からのオリンピック開催・中継等で全体的に人出も少なく、七夕祭りからの猛暑も重なり、街なかは閑散としていた。後半も昨年より気温が高い日が多く、台風とのダブルパンチでお手上げ状態。

サービス業

<旅館業>

(土湯温泉)

台風と高温気候の繰り返しにより、人出が悪かった。宿泊予約もお盆ギリギリまでかかるなど客足の出が遅かった。北海道新幹線や北陸新幹線、九州復興キャンペーン等の影響があったのかもしれない。いずれにせよ、東北復興応援と言われるものは無くなりつつあるので、インバウンドも含めて土湯温泉のブランドと広域的な魅力づくりをすすめていかなければと思っています。

<理容業>

連日の猛暑で夏メニューが好評だった。月末に台風の影響もあり客足が落ちたが、例年に比べどの地域も忙しかったよう。9月に入り、涼しくなり始めると客足が鈍るので、暑さで痛んだ髪やお肌のお手入れ等、ケアのアドバイスを積極的に実施していきたい。

建設業

<建設業>

(県北地区)

経済対策として、公共事業予算の前倒し発注により、上期の事業量は伸びている。

(県南地区)

規模の大きい土木工事の発注が数件見られたが、公共建築工事は減少している。民間住宅建築も足踏み状態で減少傾向にある。除染は白河市と西郷村で残っている分が行われているが、年度内で完了の見込み。

<管工事>

給水設備、排水設備申請とも前月比で減少している。前年同月比累計対比では給水設備申請が減少し排水設備申請を増加している。

<専門工事>

早い夏日、明けない梅雨、涼しげな盆前、暑い盆明けと来て、観測史上初めての東北太平洋側に直接上陸する台風と、今年は異常気象のオンパレードの年となった。福島県は台風10号の直撃コースからは外れたが、北日本には想定外の被害をもたらし、福島県の沿岸部でも相応の被害が発生している。ひとことで「前例がない」と言うのは簡単な話でだが、逆な言い方をすれば「今までのやり方は通用しない」時代に入ったと言えるのかもしれない。我々の業界も、今までの常識や通例は通用しない状態に入ってきており、そういう意味では、天候だけでなく私たちのあり方そのものが今までのルーチンでは通用しない時期に入ってきているのかもしれないと感じる。業務は傍目では比較的堅調だが、確実に下降線に入ってきている。業界団体全体が意識して進む方向をコントロールしないとけないと感じている一方で、これと言った旗印がないと言う事にも危機感を感じている。

運輸業

<ハイヤータクシー>

例年のことながら8月は企業の休み等が影響し、低調基調が続いている。